

子育て支援で町に塾を開設 LTEタブレットで教育格差のない学習機会を

— 一戸町まちづくり課

目的

- 子育て支援を実施し、町の魅力度を高めたい
- 地域の通信環境の差をなくし、平等な学びの機会を与えたい
- 公営塾や小規模校での自学自習を充実させたい

アプローチ

- 公営塾を開設し、LTEタブレットを活用した新たな学びの提供
- 広いカバー率のドコモLTEタブレットで、いつでもどこでも誰でも学べる環境を
- ICTを活用した個別学習のデジタル教材を導入

町が運営する学習塾にLTEタブレットを導入

岩手県一戸町は、奥羽山脈と北上山地に囲まれた丘陵地にあり、世界遺産登録をめざす「御所野遺跡」がある町です。過疎化の課題を抱える同町では、定住人口の増加をめざして、これまでに高校生まで医療費無料化や子育て支援住宅などさまざまな子育て支援策を打ってきました。これらの生活面の支援から、さらに教育分野での支援を充実させることとしました。

そのため一戸町では、2018年1月から町で公営塾を開き、小学生を対象にLTEタブレットを活用した学習を始めました。同町の総務部まちづくり課 課長 栗橋泰彦氏は「地元には塾はありませんが、公営塾をつくることで、“この町で学ばせたい”と思う子育て世代を増やしたいと考えました。小学生を対象としたのは、これから中学・高校と進学していく際の学習習慣の定着を目指したものです」と語っています。



通信環境の差を、教育格差にしない

公営塾を始めるにあたり課題になったのは、指導者の確保でした。塾の講師を数名採用したものの、異年齢の子供たちを少ない講師で教えるのはむずかしいです。そこでICTを活用した個別学習のデジタル教材を導入し、自学自習でも取り組めるよう42台のLTEタブレットを導入しました。機種選択の理由について同町 総務部まちづくり課 主任 来田忍氏は「一戸町は集落によって通信環境に差があるため町内のカバー率を重要視しました。将来的には子供たちが自宅タブレットを使って学習できる環境にしたいと考えており、通信環境の差が教育格差にならないよう配慮しました」と語る。また、既に町内には2教室目の公営塾を開設しており、今後さらなる学習機会の充実に取り組んでいくといいます。



栗橋 泰彦氏 来田 忍氏

岩手県一戸町

岩手県二戸郡一戸町高善寺宇大川鉢24-9
URL: <http://www.town.ichinohe.iwate.jp/>

岩手県一戸町は2018年から、子育て支援策のひとつとして町が運営する公営塾をスタートさせました。そこでは塾講師の不足を補うためにLTEタブレットを導入し、ICTを活用した個別学習に取り組んでいます。また同町では、町内の小学校2校にもLTEタブレットを導入。ICTで現場の課題を解決しつつ、新たな学びを提供しています。



[取材協力] 一戸町立鳥海小学校

小学校の複式学級でLTEタブレットを使った個別学習を実施

公営塾にタブレットを導入した一戸町ですが、塾でのICT活用におさまらず、2018年4月からは町内の小学校にも取り組みを広げています。具体的には、複式学級のある小学校2校をモデル校にし、LTEタブレットを計80台導入して一人1台環境を実施しました。複式学級ではひとりの教師が片方の学年を教えている間、もう一方の学年は個別学習に取り組みますが、待ち時間ができてしまうことが課題でした。ICTを活用することで授業時間をより有効に使うことがねらいです。

たとえば、一戸町立鳥海小学校では3~4年生、5~6年生の複式学級で、個別学習の際に算数のデジタル教材を活用しています。同教材は個々の習熟度に応じた問題がタブレットに提示されるほか、児童の解答を自動採点し、誤答があれば苦手な部分の克服問題を提示してくれます。このデジタル教材を個別学習に活かすことで、授業中の待ち時間を減らし、児童たちが自分で学習を進められるようにしました。



教師の負担を減らし、児童たちに達成感を与える

5~6年生を受け持つ佐藤彩教諭は「今までは個別学習用にプリントの問題を用意していましたが、デジタル教材を使うようになってから教師の負担が減りました」と話しています。また3~4年生を受け持つ南館伸明教諭は「子供たちは習熟度に合った問題を解いてその日の授業を終えるため、“できた”“分かった”という実感を持てるのが良いです」とデジタル教材のメリットを話してくれました。ICTで現場の課題を解決しつつ、新たな学びの価値をもたらしています。



佐藤 彩 教諭

一人1台の環境が学ぶ意欲を促進

鳥海小学校ではほかにも、さまざまな場面でLTEタブレットを活用しています。授業支援システムを活用した意見共有や動画の利用、調べた内容を発表するプレゼンテーション、校外学習や遠足など、一人1台環境を活かして日常的にICTが使われています。

公営塾や鳥海小学校におけるタブレットの学習は、児童たちからも好評です。小学6年生からは「算数のデジタル教材は正解するとメダルがもらえて楽しい」など、意欲的に学ぶ様子が伝わってきました。



南館 伸明 教諭



ドコモの安心できるサポートで、現場の挑戦を促したい

南館教諭と佐藤教諭はタブレットを活用するメリットについて、発表する機会が増えることだと話してくれました。両教諭は児童の変化として、「発表のために模造紙や画用紙に書く作業が減り、発表後に“これからどうする”という思考に集中できるようになりました」(南館教諭)、「自分の想いを持ったものが見せやすくなり、子供たちの話す力が伸びたと感じます」(佐藤教諭)と述べています。

今後はプログラミング教育や新しいアプリの活用にも挑戦していきたいと意欲を持つ両教諭。一戸町まちづくり課の来田氏は「ドコモのサポートがあるので、安心して“どんどん使ってください”と言っています。結果として、先生のタブレットの活用につながっていると思います」と手応えを話してくれました。



お問い合わせ

株式会社NTTドコモ

ドコモ・コーポレートインフォメーションセンター(☎0120-808-539)
受付時間 平日午前9時~午後6時(土・日・祝日・年末年始を除く)

ドコモのホームページ 法人のお客さま
教育の場にICTを!

https://www.nttdocomo.co.jp/biz/special/education_ict/

